

第6次稲沢市総合計画審議会〔第2回〕

【日 時】平成28年9月29日（木） 午後1時30分～3時30分

【場 所】稲沢市役所議員総会室

【出席者】第6次稲沢市総合計画審議会委員（敬称略）

加藤錠司郎	稲沢市議会議員
杉山茂和	稲沢市議会議員
川合正剛	稲沢市議会議員
志智 央	稲沢市議会議員
渡辺ちなみ	稲沢市議会議員
朽本敏子	稲沢市議会議員
秀島栄三	名古屋工業大学 大学院 工学研究科 教授
栗林芳彦	名古屋文理大学 情報メディア学部 教授
田中基夫	愛知文教女子短期大学 教授
小島洋一	稲沢商工会議所 副会頭
松岡重夫	平和町商工会 会長
大津幸博	愛知西農業協同組合 代表理事専務
青井 博	稲沢市教育委員会 教育長職務代理者
大島宏之	稲沢市医師会 会長
山内孝三	稲沢市社会福祉協議会 会長
柿沼 晋	稲沢市老人クラブ連合会 会長
鈴木恵理子	稲沢市子ども会連絡協議会 顧問
森岡庸晃	稲沢金融懇話会 幹事
平井直人	愛知県立稲沢高等学校 教諭
後藤清敬	名古屋鉄道株式会社 鉄道事業本部 土木部建設課 課長
酒井律治	防災ボランティア稲沢 会長
各務容子	ママサポートぴよぴよ
定行加保里	公 募
坪内留美	公 募
永井美妃	公 募
中西 弘	公 募

〈事務局〉

篠田智徳	市長公室長
足立直樹	市長公室次長兼企画政策課長
大口 伸	企画政策課主幹
吉川修司	企画政策課主査

荻原幸雄 企画政策課主査
新見 巧 企画政策課主任

【議事次第】

1 あいさつ

2 協議事項

- (1) ビジョン2027（基本構想）・プラン2027（基本計画）総論（案）について
- (2) その他

【会議の概要】

1 あいさつ

[事務局]

定刻となりましたので、第2回稲沢市総合計画審議会を開催します。本日、この会議の進行を務めます企画政策課長の足立直樹です。どうぞよろしくお願いいたします。それでは、会議に先立ち、市長公室長の篠田からあいさつを申し上げます。

[市長公室長]

こんにちは、市長公室長の篠田です。本日は大変お忙しいところ、第2回稲沢市総合計画審議会へご出席いただき誠にありがとうございます。

第1回では、限られた時間の中で説明が途中となり、申し訳ありませんでした。前回お示しました、いわゆる基本構想の部分である「ビジョン2027」に加え、基本計画の部分である「プラン2027」の総論について、この後説明いたします。「ビジョン2027」は、本市のまちづくりを進める上で骨格となる部分です。また、「プラン2027」総論部分については、今後部門別に計画を作る際の前提となる部分です。本日も限られた時間ですが、よろしくお願いいたします。

[事務局]

事務局から、2点報告します。

本日の会議では、田中浩三委員、鈴木忠委員の2名より、会議を欠席される旨、連絡を受けております。

また、総合計画策定支援業務を委託しております三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社名古屋の担当者も出席をしておりますので、よろしくお願いいたします。

それでは、会議の進行につきましては稲沢市総合計画審議会条例第4条第3項の規定に基づき会長に務めていただきます。以後の議事の取り回しは、秀島会長にお願いします。

2 協議事項

(1) ビジョン2027（基本構想）・プラン2027（基本計画）総論（案）について

[会長]

早速、第2回の議事を進めていきたいと思います。最初に、協議事項1、ビジョン2027（基本構想）・プラン2027（基本計画）総論（案）について、事務局から説明をお願いします。

= [事務局] =

【「稲沢市ステージアッププラン（第6次稲沢市総合計画）-素案-」について説明】 【資料1】

[会長]

資料を一通りご説明いただきましたが、前の方から固めていきたいと思います。事務局説明にもあったように、これはあくまで叩き台なので、骨格自体がこれでいいのかというところも皆様からご意見をいただきたいと思います。これに基づき行政運営がされるので、しっかりしたものにしたいと思います。

資料1の5ページに図示されているとおり、この総合計画を作る上での、一つの拠り所が「まち・ひと・しごと創生総合戦略」です。総合計画に盛り込まれる施策は、捉え方によってはどの自治体もそんなに違いが出ないところもありますが、本市ならではの問題はある程度「まち・ひと・しごと創生総合戦略」でまとめられています。場合によっては「まち・ひと・しごと創生総合戦略」の内容についても事務局から紹介していただくと良いと思っています。

ただ今の事務局の説明について、ご意見、ご質問がありましたらお願いします。

[委員]

文章、言葉の使い方についてですが、なぜカタカナが多いのかと思っています。日本語で表記できるところは日本語にするべきではないでしょうか。

[事務局]

総合計画は、行政と市民の皆様とで今後のまちづくりの方針を共有するために策定するという目的もあります。そのため、行政用語や専門的な用語については、別途、解説欄を設けることを考えています。

カタカナの言葉については、一般的に市民の皆様が慣れ親しんでいる言葉については用いたいと考えています。日本語に置き換えづらい外来語については、用語説明で対応させていただきます。この言葉は適してない、この言葉の方がいいのではないかと、ということについては、委員の皆様のご意見を踏まえて適宜修正してまいりたいと考えております。

[委員]

日本語で書いた方が分かりやすい面もあると思うので、今後考えていただければと思います。分かりにくい言葉のままだと、イメージを作れませんので。

[会長]

今ここで全てを解決することは難しいと思いますので、その都度お気づきの際にご指摘いただきたいと思います。他にいかがでしょうか。

[委員]

資料1の13ページに、「リニア中央新幹線の開業は本市にとって大きなチャンス」とあり、「名古屋駅から鉄道アクセス10分台の都市の中で開発が遅れている本市は、逆に発展余地の残る唯一の都市である」と書いてあります。10分台の都市の中で開発が遅れたことの検証が必要ではないでしょうか。また、検証を基に具体的に何をチャンスに変えていくかについては、どうお考えでしょうか。

[事務局]

資料1の9ページで示した名古屋駅から10分台の都市では、駅前でマンション等の開発が進むことで、人口が増加しています。JR稲沢駅については東側で区画整理を行いました。毎年約500人程度の定着、計画人口が約5,000人の区画整理事業であり、概ね事業が完了しております。名鉄国府宮駅については、青空駐車場等、駅周辺で低未利用地が多い状況であり、名古屋駅から10分圏内という駅のポテンシャルを生かしきれていないと思っています。そうしたところをこの10年間で何とかしたいと考えています。

[委員]

前回は質問しましたが、第5次総合計画の10年間の検証はどうなっているのでしょうか。そして、検証を踏まえた上で、第6次総合計画の素案が作られているのでしょうか。

市としてどのような政策を最重要と考えて今後まちづくりを行っていくのでしょうか。そして、それは市民の意見で一番多かったものを中心にするのか、それとも市役所や議員の中で話し合われてテーマを決めていくのでしょうか。「まち・ひと・しごと創生」の中でも「まち」「ひと」「しごと」それぞれ全て等しく目標にしていくのでしょうか。それともどれか一つの絞るのでしょうか。そうしたお考えをお持ちであればお伺いしたいです。

[事務局]

前段の質問、第5次総合計画の検証についてですが、前回お答えした通り、政策分野毎の担当部署による検証結果の報告については既にまとめております。それをどのような形・タイミングで示すかについて、現在、検討しているところです。政策分野毎に検証されていますので、各論の議論で出すことを考えておりました。検証結果を踏まえ、「この政策分野ではここが達成できてないから今後どうするべきか」という議論に繋げていきたいと考えています。

次に、今後中心となる政策をどのように決めるかについてですが、昨年度に基礎調査を行い、市民アンケート、市民団体へのインタビュー、ワークショップ等で市民の皆様からご意見をいただきました。市役所内部におきましても、市職員へのアンケート、部長クラスの庁内委員会、

担当者レベルの部会等から意見を募りました。議会においても総合計画に関する一般質問等をいただきました。特定の主体のみの意見を中心に策定するのではなく、オール稲沢の総力戦で策定してまいりたいと思っています。

[委員]

検証する中で、この10年間で達成できなかったと思われるものは何でしょうか。

[事務局]

この10年間で達成できなかったものについて、どれが一番とは決め難いですが、未達成の部分が、「まち・ひと・しごと創生総合戦略」で掲げた五つの重点戦略の背景に繋がっていると考えています。

「まち・ひと・しごと創生総合戦略」では、重点戦略として、①国府宮駅の再整備、②JR稲沢駅の東側にある市有街区（B街区）の有効活用、③シティ・プロモーション、④保育士不足に備えて人材確保に努めて保育の質を守ること、⑤農地の集約や農業法人化を推進して持続可能な農業を創出すること、の五つを掲げています。

総合戦略は5年間の計画ですが、さらに先を見据えた上で重点戦略を掲げております。今後の課題であり、推進していかなくてはならないことと思っております。同時に今まで本市の取り組みとして足りなかった部分でもあると思っております。

[委員]

総合計画にステージアッププランという名称が使われていますが、この「ステージ」という言葉を的確な日本語に置き換えられるかという点、たぶん置き換えられないから使っているのだらうと思います。では、なぜステージアッププランという名称にしたか、「ステージ」という言葉に込められている意味は何かをお聞きしたいです。

また同じように「ビジョン」「プラン」「アクション」、もう少し後では、「コンセプト」という言葉が使われています。この辺りの外来語に込めた思いは何かを明らかにしていただかないと、なぜわざわざ日本語で言えるものを外来語で表記しているのか、ただ語感がカッコいいから、と思われるのではないのでしょうか。その点についてお答えいただきたいと思っております。

[事務局]

「ステージ」という言葉は、一般的に「舞台」を意味しますが、それにとどまらない様々な意味を込めています。今よりも一つ高い次元を意識したまちづくりに取り組む必要があるとの認識のもと、資料1の2ページ中段で記載したように、次の三つの意味を込めてステージという言葉を使っています。一つ目として人口減少問題やリニア中央新幹線開業等、新しい時代や社会の変化をステージに見立てて対応していくとの意味を持たせています。二つ目として「行政水準を高めていく」とありますが、前例踏襲的に現行の法律ではできないからあきらめるのではなく、例えば国や県に対して権限委譲や規制緩和を訴えかけるなど、一段上のステージ水

準で行政も闘っていかなくてはならないという意味を込めています。三つ目として、上から目線の言い方になるかもしれませんが、行政がすべてを行うのではなく、市民の方々も巻き込みながら、行政と市民との関わり合いの質を上げていきたいとの意味を込めています。「時代」「行政の水準」「市民との関わり合いの質」、様々な日本語の意味を込めて「ステージ」という言葉を使っております。

「ビジョン」「プラン」「アクション」については、それぞれ「基本構想」「基本計画」「推進計画」という硬い日本語よりは、カタカナの「ビジョン」「プラン」「アクション」のほうがよりイメージ喚起力があるのではないかと考えております。

「コンセプト」という言葉についてですが、今までの総合計画では「将来都市像」という言葉を使っていたと思います。第5次総合計画では「自然の恵みと心の豊かさ 人が輝く 文化創造都市」という言葉を将来都市像としてきましたが、今回の第6次総合計画を策定するにあたり、最大公約数的な将来都市像ではなく、もう少し本市ならではの、替えの利かないところを表現したいと考えています。そうした具体的な将来像、あるいは本市の目指す姿を表現するときに「コンセプト」という言葉でまとめました。これも当てはまりの良い言葉があればいいのですが、この言葉がどうかと投げかけさせていただいた、とお考えいただければと思います。

[委員]

例えば「ステージ」を「舞台」と訳したら意味が通りませんが、今ご説明いただいた三つの意味を一つの言葉で表現することを考えた場合、「ステージ」という言葉なら、この三つを包含して進めていけるので「ステージアッププラン」という名称にしたとのことでした。それに対して委員の皆がOKと言えればステージアッププランという名の下に、議論が進んでいくわけです。その意味では、今のところをしっかりと確認しないとイケないと思いましたが、今の説明を聞く限り、「ステージ」を「舞台」と訳すのは、そぐわないだろうと思います。

先程から意見があったように、安易に外来語に頼ることなく、その含まれる意味が日本語より広い範囲で含まれ、その方が都合がいい、または認識度が高いときに限って使う方が良いのではないのでしょうか。日本語に置き換えることで理解度が上がるならば、日本語を使えばいいのではないのでしょうか。議論をする上で、言葉が想像力を喚起し、発想することになると思いますので、特殊な言葉の使い方をした場合、その言葉を使った意味を説明されないと議論が集約していかないと思いますので、これからもその点については気をつけていただきたいと思います。

[会長]

大事なご指摘だと思いますので、今の点について何か他のご意見ありましたらお伺いします。

[委員]

資料1の10ページに住宅の建設が進んでいない現状があるという記載があります。本市の9割が市街化調整区域で、法律的に自由に住宅が建築できないと書いてしまえば身も蓋もありません。

せんが、市街化区域等の住宅を建てられる所が本市のどこに分布しているか知りたいです。そこをうまく活用して住宅建設など人口を増やす手立てが見込めれば、9割が市街化調整区域であっても、もう少し工夫ができると思います。

私の住む祖父江町は、ほとんどの場所が市街化調整区域と聞いており、30～40年前と住宅の数があまり変わらないように思います。実際、本市で住宅が盛んに建てられている場所と、建てられない場所を、はっきりさせていただくと、議論がしやすいのではないかと思います。

[会長]

最初に事務局から説明がありましたように、土地利用方針の部分は未調整につき、今回示すことができなかつたとのことなので、次回以降に議論していただくことになると思います。今日は、できればもう少し市全体としての方向性や、この計画の方向性というところで議論させていただきたいと思います。

先程の資料1の2ページに関する話をきちんと片づけたいと思いますので、これに関してご意見ありますでしょうか。

[委員]

先程「ステージ」という言葉の意味、使い方について話がありました。三つの意味が込められているとのことですが、一つ目の「人口減少問題やリニア中央新幹線開業など、新しい時代（ステージ）に対応していく」について、あまりイメージが湧きません。新しい時代に対応していくとは、人口減少に伴う東京一極集中のことをいうのでしょうか。二つ目の「行政水準（ステージ）を更に高めていく」というのも、何を指すのでしょうか。三つ目の「まちづくりにおける市民との関わり合いの質（ステージ）を高めていく」も同様です。先程事務局も仰っていたのですが、高めていくという言い方は確かに上から目線の感じがするので、努めていくという表現にさせていただいた方がいいのではないかと思います。何を意味しているかについて、もう少し説明を加えていただきたいと思います。

[事務局]

「ステージ」とは何かと問われれば、先程のような説明はいたしますが、その説明がない状態では「ステージ」に込められた意味が分かりづらいというご意見だと思います。資料1の2ページ中段にある三つのステージに関する文章に対し、説明を補足するというところでよろしいでしょうか。

[会長]

では、ここは宿題にさせていただきますか。先程ご説明いただいたことがここに書いていないと分かりづらいと思います。その辺りも含め、この場で委員の皆が納得できるものになりたいと思います。

[委員]

人口減少問題は日本全国共通のことです。また、リニア中央新幹線開業は名古屋近隣のすべての都市が関係することです。本市にとって、もう少し面白い発想はないでしょうか。そうした意見について皆で出していただければと思います。何となくインパクトが弱いと感じますので、それも検討課題としていただきたいと思います。

[会長]

本市としての問題が明るみになるような形について、事務局だけでなく皆様からもご提案いただきたいと思います。

[委員]

資料1の2ページの三つの柱について、一つ目に対し、二つ目、三つ目の次元が離れており、3つのバランスが取りにくい感じがしますが、その点はいかがでしょう。

[会長]

補強する内容を検討する際に、「対応していく」「高めていく」という表現の中身についても具体的に考察していただき、あまりにも次元が違うようならば修正していただくというのでいかがでしょうか。

[事務局]

この三つのステージに関する部分については、皆様のご意見を踏まえ、もう少し具体的にどのようなことを意図しているか説明を補足したいと思います。その中で、この三つの次元が異なっており、バランスがとれていないという指摘も踏まえて整えたいと考えております。

[委員]

今回の資料はあくまでも素案ということですが、既にその素案を前提として議論が進んでいるように思います。

論旨としては、まず人口が減少するという点。名古屋駅から10分圏内の他都市は5%位人口が増えているが、本市は増えていないという話になり、その原因は市街化調整区域が9割以上を占めているということと、住宅供給が少ないという話になっています。

もう少し読み進めると、名鉄国府宮駅周辺の再開発、それから、先ほど行政水準（ステージ）を高めるとの話がありましたが、おそらく、子育て支援や教育の充実、インフラの整備や暮らしの安心・安全の向上等の住みよいまちづくりということが、市がイメージしている行政水準（ステージ）の向上ではないかと推測します。

結局、総合計画とは何かということ。まちづくりへの展開として示された政策部分として、まちの基盤、生活環境、子どもの教育、福祉、健康・医療、安心・安全など、諸々あります。おそらくどれを取ってもやらなくていいという話にはならないのだろうと思います。そう

なると、総合計画は総花的に全てを箇条書きしたり、網羅したりする、そうならざるを得ないでしょう。総花的がだめなのではなく、総合計画だからそうなるということだと思います。

前回の市長のあいさつにもありましたように、税収、使えるお金は限られています。人口が減少すると税収が一層先細ります。総花的にやらなければならないことはあっても、どれに重点を置くか、優先順位をどうするのか。これが大変重要だと思います。無尽蔵にお金があれば、どれもこれも同じように頑張るという話だと思いますが、そうではありません。そこが一番の問題です。

総花的な総合計画に向けたルールが既に敷かれており、その流れで議論が進んでいくことを疑問に思います。限られた税収の中、いかにこの10年間で本市をより良くするのかを考えた場合、やらなくてはならない施策が諸々ある中、どこへ重点配分していくかを考えるべきではないでしょうか。そうした優先順位が今回の総合計画で求められているのではないのでしょうか。その点を確認させていただきたいと思います。

[事務局]

仰る通りだと思っています。本市に限らずどの自治体も、これまでの総合計画の最大の問題点は、総花的にあれもこれも施策を盛り込むことで、実効性が失われ、策定したらそれで終わり、作った後に誰も見ない、ということだと思っています。事務局内部でもどのような総合計画にしたいかを議論しましたが、総花的なものを今までどおり前例踏襲で作ってればよいという時代ではないと思っています。税収や、国からの地方交付税が今後少なくなる一方で、高齢者が増え、障害者の対象枠が広がり、子育て支援が必要とされている中で、扶助費等の出費がどんどん増えていきます。地方交付税の合併算定替が終了し、最終的に約17億円の減収となる一方で、扶助費等はその減少幅以上に増えていくのが確実な状況です。行政としてこれだけはやらなくてはいけないものを何にするか決めないと、本当に立ちゆかなくなると考えています。

「まち・ひと・しごと創生総合戦略」は、人口減少問題に特化した計画なので、重点戦略を明らかにした戦略的計画を作成できました。総合計画となると、今後10年における市の政策全般に関する計画なので、総花的にならざるを得ないところはありますが、その中でも重点的に何に取り組むかを示す計画にしたいという思いはあります。そうした方向で各委員の皆様からご意見をいただきたいと思います。

[委員]

まず問題提起として、とにかく人口減少があり、特に本市の場合は、名駅から10分圏内という利点をもっと活かしましょうということ考えた場合、それが名鉄国府宮駅周辺の再整備という施策になると推察します。また、引き続き住みたいまちにしていく、あるいは、名古屋等の近隣に勤めるかたが住まいとして選択するようなまちにしていくことを考えた場合、例えば子育て支援だとか、基本政策分野として挙げられた政策につながる、それらを重点として考えている、このような理解でいいですか。

[事務局]

資料1の14、15ページの「2-2 稲沢市が目指したいまち」に関係するのですが、「市民が、将来もずっと暮らし続けるまち」というからには、子育て支援や高齢者福祉等で、住んでよかった、いつか戻ってきたい、そう思っていたけるように行政サービスを磨くこと、これは当然のことであり、前提だと思えます。

その上で、まち・ひと・しごと創生、地方創生には、都市間競争的なところがあることも否めないと思っています。外の方々、特に今後、労働者人口が増える名古屋駅周辺で働く方々に居住地として選んでいただくためには、本市自体の魅力を高める必要があります、攻めの施策の1丁目1番地として今後10年で何が一番重要かと考えますと、やはり名鉄国府宮駅周辺の再整備ではないかと思っています。

[委員]

資料1の19、20ページ、「2) 基本政策分野の基本方針」の「③子ども・教育」の本文中、「結婚や出産、子育てに関する問題を一つひとつ取り除くことにより」という表現はネガティブに感じますので、例えば「より良い結婚、出産しやすい政策に向けて…」というポジティブな表現にしてはどうでしょうか。

同じく「⑦産業・労働」の本文中、「経営安定化と企業誘致やベンチャー育成など」と記載がありますが、「ベンチャー」と一言で言っても、特定のベンチャー企業なのか、ベンチャービジネス全体を指すのか、明確にされたほうが良いと思います。

また、資料1の23ページの4行目に「今まで就業していない女性や高齢者が新たに職に就かない限り、現在の労働力を維持することが難しくなると考えられます」とありますが、実際には、本市に新しい生産者人口を呼び込むことも一つの方法です。ですから、そうした記載も加えていただきたいと思えます。

[事務局]

基本政策分野の基本方針については、今後庁内の作業部会において内容を検討してまいりますので、ただ今のご指摘につきましては、参考にさせていただきます

先ほどの説明を補足します。総合計画は市全般の最上位の計画であり、各施策分野にまたがった計画ですので、総花的にならざるをえないところがあります。また、政策・施策間での優先順位をつけるのは難しいと思います。ただ、何を重点的に行うかについては、「2-2 稲沢市が目指したいまち」の冒頭に「以下のような視点を重視します」と謳っており、これらの考え方を重視するという視点で素案をまとめております。

[委員]

今回課題として挙げられている、住宅を増やすこと、リニアインパクトに合わせて人を呼び込むこと等の、具体的な行動の計画を立てなければならなくなった一番の原因は、人口が減っていることにあると思えます。

では、なぜ人口が減ったかを考えると、若い人への投資が少なかったからこのような現状になっているのではないかと、個人的には思っています。まずそこを一本の軸として通した上で、今後の計画を考えていかないとずれていく気がします。

[委員]

市民の税金を使って総合計画を作るわけですから、市民の幸福度をどう高めるか、現在の市民に対してどういう幸福をもたらすべきか、そうした観点で目標を具体的にできないでしょうか。あるいは部会で議論する話かもしれませんが、市民に対してどのような幸福を提供するのか、そのためにどうするかといったビジョンを出されたほうが良いと思います。

ハード的な話もいいですが、現在住んでいる高齢者の気持ちを酌んだ上でどうするのか。また、人口減少の話も出ていますが、今現在住んでいる若い人に対してどのようなことを市としてやろうと思っているのか、ということを表示された方が良いと思います。

皆、本市を愛していると思います。しかし、100%の方が満足かという、アンケート結果にありますように、満足していない方もいます。満足していない方に対し、どのようなことをやるのかなど、分かりやすいビジョンや目標を検討し、出されてもいいのではないかと思います。

[事務局]

今いただいたご意見ですが、具体的な今後のビジョンについては、第5次総合計画の検証をした上で、今後お示しします基本計画の各論の部分に記載することを考えています。また、第5次総合計画の進捗に併せて、課題が解消されていない部分や、社会状況の変化に応じて問題や課題が新たに生じている部分について、市の考え方を各論の中で、方向的な部分を含めてお示しすることになると考えています。今回提示したのは総論部分ですので、具体的なところはお示ししていないことをご理解賜りたいと存じます。

[会長]

外から来る人を増やそうという主張がある一方、現在住んでいる人がまずは重要だという話は、場合によってはぶつかり合う気もするのですが、いかがでしょうか。二者択一ではありませんが、どちらに重点が置かれるべきなのでしょう。

[委員]

個人的な思いとしては、今いる人を大事にするべきだと思っています。その理由としては、外から来る人は何らかの理由があって来てくれると思うのですけれども、一番要因として大きいのは、「稲沢市はすごく良いまちだ」という情報が市内に住んでいる人から伝わり、興味が湧いてこの地に来てくれる、というのが私の周りでは多かった印象を受けています。

そのため、市内に住んでいる人が、本市に住んでいて良かったと思い、その思いが溢れて周りにどれだけ発信していけるのかが重要だと思っています。今回の計画を策定するに当たっても、

できる限り本市に外から人を呼び込むことを目標にしていますが、他の自治体も同様の取り組みをしており、結局は総数は変わらない人口の奪い合いをしているだけだと思っています。そのため、出生数を増やす取組み等、今いる人達にどれだけ満足していただき、このまちに住んでもらえるかが大事だと思っています。

[委員]

少し厳しい意見を申し上げます。少なくとも結果としてこの10年間、人口は増えなかったことです。ということは、人口増がすべてとは申しませんが、今まで施行されていた総合計画は人口問題に限っては失敗だったと言わざるを得ません。我々民間企業で言いますと、他社が5%も売上が増えている中で、当社は売上が増えなかったとしたら、これは失敗です。もし人口問題を議論の大きな柱にするのであれば、前回の総合計画はどこがうまくいかなかったかを検証するべきだと思います。

それと、先程の議論の続きになりますが、私は外から人を呼び込むことを主にすべきだと思います。なぜかという、今まで中を主にやってきて増えなかったわけですよ。このままいくと、事務局の将来人口推計によると10万人を切るわけです。それで本市はいいのかという議論をするべきだと思います。今住んでいる方の満足度を下げろと言っているわけではないのですが、今住んでいる方のサービスを維持するためには、一定以上の人口がいないとできません。ですから中を軽んじろとは言いませんが、敢えて二者択一で言いますと、外から人をどう呼び込むかをターゲットとした方が、最終的に5年後、10年後に市として大きくなっていくのではないのでしょうか。大きくなるのが全てとは言いませんが、現状を維持することができるという観点でいくと、そこが主ではないかと思っています。

[委員]

外から呼び込むか、中を大事にするか、二者択一というお話がありましたが、この素案を見る限り、資料1の16ページのまちづくりのコンセプトでは、「名古屋駅周辺開発やリニア開業の好影響を取り込む」「名古屋駅から鉄道アクセス10分台のポテンシャルを生かす」という記載があり、外からの流入に主眼を置いた素案になっていると思います。

先程から多くの意見が出ていますが、外から人を取り込もうという姿勢は近隣のどこの市町村も同じです。先程、具体的な話が出ましたが、喫緊の課題、やるべきことは名鉄国府宮駅周辺の再整備ではないかという空気を何となく感じます。しかし、今後数十年は人口がどんどん減少していき、これまでと違う社会になっていきます。ただ外から人を呼び込むというこれまでと同じ考え方で、この10年は持つかもしれませんが、その先の10年において、どんどん増える高齢者を支えるサービスは、完結できなくなると思います。

そのため、今までと違う方法を何かもう少し具体的に想定することはできないのでしょうか。外から呼び込む、中の人を大切にするという、これまでの考え方ではなく、それをミックスするようなものができたらいいのではないかと思いますが、いかがでしょうか。

[会長]

さらに議論を進めていただいております。どちらかという答えを知りたいわけではなくて、今すぐアイデアは出てこないかもしれませんが、どうしたらいいかということをごひとも計画書に書き込めたらと思います。

[委員]

今後、人口も減少する、税収も下がってくるということで、一番確認すべきことは、これまでのように、総合計画で総花的に全てのことを同じようにやる、そういう時代ではないということではないでしょうか。あれもこれもこの時代から、あれかこれかの時代になることを、やはり皆がご理解いただかないといけないと思います。

ただ、一つ過去の経験で申しますと、合併をしたときに新市建設計画を作りました。当時、新市建設計画に位置づけた事業でないと、後で合併特例債が借りられないということがありました。事務局側にお聞きしたいのですが、総合計画に項目として挙げないと後で困ることがあるのでしょうか。その点も大事なことでと思っています。

国民として、シビルミニマムとして受けなければならない社会保障等については当然ですが、投資的経費を使って行う事業はおそらく全部はやれなくなります。どれかを選んで集中してやる、そのような時代が目の前に来ていると思います。そうした意味から、もう少し絞り込んだ計画にする必要があるのではないかと思います。書いておかないと困るということがあるのか、そのことだけお聞きしたいと思います。

[事務局]

総合計画に掲載されていないことで、施策や事業を展開する上で支障を来す部分としては、土地利用方針等の基盤整備的などころが該当するのではないかと考えます。新市建設計画のような合併特例債等の起債関係、国庫、県費等の補助に関しては、私の理解におきましては該当するものはないと理解しております。

[委員]

この平成29年度までの計画で一番進まなかったのは、おそらく土地利用計画だと思います。長期間にわたる位置づけがないと行えないから総合計画に位置づけをして、なおかつ、その2年後に策定する都市計画マスタープランに位置づけを行いました。その中で市街地誘導地域というのがありますが、それがこの10年間で市街化区域に編入できませんでした。人口が増えなかったことも含め、その点が一番大きな反省点ではないかと思っています。しかしこれは長期の計画なので、実際にやれなくても位置づけていかなければならないことだとは思っています。

そのため、その辺りを分けて考えることが必要であり、土地利用計画等については10年より長いスパンで考える必要があると思います。一方で戦略的にやらなければならないことについては、あれかこれかで選択していかなければならないと思います。今後、皆様の議論で本市として何をやるべきかという意見を出し合い、良い方向に進んでいくように考えていただきたい

と思います。

[会長]

初回のあいさつでも申しましたが、地方自治法上の義務がなくなり、総合計画策定は必須ではなくなっているのので、どう策定するかを考えたとき、総花的でなく、この地域でやっていくべきことだけを書くというのも、大いにありだと思っています。

[委員]

「ステージアップ」に込められた三つの意味が漠然としているので注釈を入れるお話や、二つ目と三つ目が、一つ目とレベル感が少し異なるのではないかというご意見もあったと思いますが、第5次総合計画に比べて枠が小さくなっているような気がします。大きい位置づけの総合計画であるならば、もう少し広がりがあるといいと感じておりますので、その点も工夫していただきたいと思っています。

[会長]

広がりというのはどのような意味でしょうか。

[委員]

全体的にすごく細かい気がします。例えば、市民との関わり合いの質や、行政水準をさらに高めていくというのは、行政としていろいろなことにチャレンジをしていくという意味だと思いますが、言葉遣いからはすごく狭い枠内の話のように思うのです。

[委員]

総合計画がどのような位置づけのものか、それから、議論の方向性を今後どのように持っていくかということについて思うのは、差別化とか競争優位をどこに持っていくのかということ、根本的な考え方として持つ必要があるのではないかと思います。限られたパイを奪い合っているわけですので、近隣の自治体との競争であることは間違いないわけです。そうしたときに、本市を選んでもらえることを目指していかなくてはなりません。本市を選んでもらうということは、外に住んでいる人も内側に住んでいる人も同じだと思うのです。本市に住んでいる人も、本市に住み続けるか否かという選択を迫られているわけで、そこで本市に住み続ける選択をしてもらうという意味では、これは選んでもらうということだと思います。外に住んでいる方も、どのまちに住むかというフラットな状態の中、同じような条件のまちがある中で、本市に住むことを選んでもらえるまちになっていかないと、人口の維持は叶わないわけです。

したがって、他の自治体と同じことをやっていると、駄目だと思いますし、例えば資料1の16ページに掲げてあるような項目でも、これは本市でなくとも、どの自治体も同じことを書いていると思うのです。同じことをやっていると勝てません。ですから、どこで差別化をして、どこで選んでもらうのか。その選んでもらう理由を明確にしていくことをやらないと、

人口の維持は叶わないと思います。常に競争であり、競争優位というものを見つけ、差別化を図っていくというような視点を持ちながら、計画を作っていく必要があると思います。

[会長]

差別化すべきところが「まち・ひと・しごと創生総合戦略」に少し示されているわけですが、総合計画でどうそれを鮮明に出すのかを考える必要があります。議論しているうちに話が丸くなっていってしまうこともありますので、大事な視点、論点だと思います。

[委員]

皆様のご議論を聞く限り、人口減少が問題だという共通認識はできていると思います。事務局から示された素案を拝見したとき、他の自治体が作られている計画とは少し違う印象を持ちました。人口減少対策に取り組むという点を強く打ち出されており、その点ははっきりしていると思っていますし、その点を中心に考えられるのは良いと思っています。

しかし、そこはやはり行政なので、様々なことをやらなくてはいけないというところを、どのように散りばめていくかというところで、視点が少しぼけ始めるのだと思います。総合計画が国・県の補助金獲得のために必要な位置付けとならないのであれば、行政水準や質を高めていくことは、書かずとも本来やっていくべき当たり前のことなので、市として何を必ずやっていくのかというところをしっかりと記載するのが良いのではないかと考えています。

人口問題に対して真摯に取り組み、競争で何を勝ち取っていくのか、外から人をいかに呼び込むのかという論点は、その通りだと思っています。名古屋から10分という、素晴らしい立地はしっかり生かせるのではないかと考えています。

[委員]

私は子どもが2人おり、子育て世代の立場として申し上げますが、他から人を呼び込むには、かなりインパクトのあることをしないと本市に人が来ない気がします。例えば、給食費を無料にする位のインパクトがないと、他の自治体に勝つのは難しいと思いました。

私は国府宮駅の東側に住んでおり、本市に引っ越してきて十数年経ちます。名鉄国府宮駅の東側はエレベータもなくて、本当に使いにくく、そうしたことが何年住んでも全く改善されていないのが現状です。先程から、住んでいる方の充実度と、市外に住んでいる方に対してのアピールについて議論されていますが、まずは市民が困っていることを解決していただいた上で、名鉄国府宮駅周辺を再整備することで、名鉄国府宮駅を市民がはじめて象徴的なものと捉えるのだと思います。市民の意見も聞いていただき、整備していただけたらと思います。

[会長]

過去10年間の問題や失敗を解決するというのも大事です。しかし、それだけではなく、差別化といった言葉にもあるように、この地域の特徴をより大きく生かし、それを発信していく、前に向かっていくような話も盛り込んでも良いのではないかと考えています。「ぜひともこのよう

な本市の良さを書き込むべきだ」という議論があっても良いのではないのでしょうか。

[委員]

出来上がった総合計画の図書はどこかに配布されるのでしょうか。誰に対してこの計画をお示しするのか伺いたいです。

[事務局]

総合計画の内容につきましては、今年度中にまとめる予定であり、平成29年度の6月に議会の議決を受けた後に計画図書として印刷製本し、コンパクトなダイジェスト版も作る予定です。今の段階では、ダイジェスト版について全戸配布することを考えています。分厚い総合計画は全戸配布できませんので、こちらは約500部を印刷し、委員の方々をはじめ、議員や近隣市町村、県等の関係機関に送付いたします。あとは図書館等で閲覧していただくことを想定しています。当然、ホームページにも掲載します。

[委員]

子ども向けのものを作って配るといった考えはありませんか。

[会長]

それは、子ども版ということでしょうか。

[委員]

そうです。本市の高校生ぐらいまでの方に「稲沢市ってこんなまちだよ」ということを示すために、総合計画の内容をピックアップし、「いなッピー」などのマスコットキャラクターを交えて、こういうまちだから君たちもここに住もうと訴えるようなものを作成する予定はありますか。

[事務局]

今回の総合計画策定の作業の中では想定していませんでしたが、今後、シティ・プロモーション等に取り組み、キャンペーンを行う中で、そうした展開の可能性はあると思います。そのような方向でも検討させていただきたいと思っております。

[委員]

若い人を本市に呼び込む論点の中で、名古屋駅からアクセス10分という物理的な距離が根拠となっています。本市は工業生産で8千億円以上の生産を誇ります。労働者を受け入れる態勢がありますので、例えば職住近接という視点も前面に出せないのでしょうか。

近辺の都市を見ると、これだけの工業生産がある所は少ないです。その辺りもアピールしながら、面的にそうした部分を第一義に出されるべきではないのでしょうか。市街化区域拡大の方

法論としてそうした視点も考えられると思います。住まいの空間としてこういう良いものがありますと、様々な点をアピールすることが必要だと思います。

[委員]

今のお話にも関連するかと思いますが、本市は立地的に企業にとって非常に魅力ある地域だと思います。住む人のためということもありますが、産業振興あるいは企業誘致といった視点から、都市環境等の様々な施策のあり方を再考できると思います。

JR稲沢駅、または名鉄国府宮駅周辺のオフィス街としての可能性や需要の掘り起こしについても、今後視野に入ると良いのではないかと考えています。

[会長]

産業の件は、「まち・ひと・しごと創生総合戦略」でも話題に出ていました。市内の事業所が必ずしも市民を採用していないケースがありますし、どう市外からの労働者を本市への転入者として取り込むかというのは、直々に社長が呼ぶということにはなりませんので、中々難しい問題だと思います。

[委員]

工業団地ができて、従業員が工場から近い市内に居を構えるような効果はほとんど出ていません。これから10年の計画では、例えば許認可権等の問題も踏まえ、先手を打って職住近接を打ち出せないでしょうか。

もう1つ強調したいのは、近隣を見ても、住宅が先行する都市は必ず行き詰まるということです。その部分だけでは、十何年で移って行ってしまふ。職と住を踏まえた上で物事を進めていく計画であるべきではないでしょうか。

[委員]

一宮市、愛西市への転出者が多いと聞きましたが、旧稲沢市と祖父江地区と平和地区の特に20代、30代の方たちの転出率について、違いはあるのでしょうか。旧稲沢市からの転出者よりも、祖父江地区、平和地区の方が転出は多いのでしょうか。

[事務局]

人口ビジョンの25ページに、9地区別の社会移動の内訳、いわゆる稲沢、小正、下津、明治、千代田、大里西、大里東、祖父江、平和、それぞれの地区における転出入に関する一覧表があります。移動人数の記載のみであり、割合がわかりませんので、次回、資料として出させていただきます。

[委員]

今回、名鉄国府宮駅の再整備が議論になるとと思いますが、駅の利用者は駅近辺の方だと思

ます。名古屋駅から10分圏以外の地区から転出している人は多いのではないのでしょうか。特に、祖父江及び平和地区辺りの、名鉄国府宮駅やJ R稲沢駅から離れている人達へのアプローチも考えないと、市全体としての人口減はやはり止まらないのではないかと思います。今後、計画の内容を考えるに当たり、そうした視点も持って臨んだ方がいいと感じました。

[会長]

この10年間で土地利用が大きな課題だったというご指摘がありました。そうだとするならば、これからの5年、10年、本市の土地利用はどうあるべきか、ここで時間のある限り議論しておきたいと思います。私的な話ということではなくて、市全体としてどうすべきだというお考えでもいいですし、どういったことが問題だということでもかまいません。

[委員]

今までも平和工業団地等の開発があり、そこに人が移動してくるようなチャンスがあった時でも、土地利用的に生かしきれなかったことが悔やまれます。当然規制もあるのですが、土地の活用ができそうな所については、他自治体は特区等の様々な手法で取り組んでいます。そうした部分が、本市の取組みとして弱く、中々チャンスを生かせなかったことが最大の敗因だと思います。

[委員]

皆様の共通認識として、本市は市街化区域が11.3%しかなく、9割弱が市街化調整区域です。この点を突破しないと宅地供給ができないことが一番の問題だと思います。特に議員の多くはそう思っています。第5次総合計画にも既存の市街化区域との縁辺部において宅地へと誘導していく区域が示されていましたが、現実にこの10年間でどこができたかという、非常に心許ないものがあります。既にその前から着手されていた下津陸田地区については区画整理が概ね完成し、人口も約4,000~5,000人増えたと思っています。しかし、もう一方で行っている西町では、人口の増加は既に収束しています。稲島東地区では、地区計画で進めようとしています。話し合いが中々うまくいかず、現実的には進んでいません。

このような中で、どのような方法があるか、市がしっかりと示すべきではないかと思います。例えば、稲島東で考えられているような地区計画を各所で行うのか、市街化調整区域でも開発が可能になるような市独自の条例を作るのか、様々な規制緩和を国・県等に働きかけるのか。そうしたことをしっかりと考え、次の10年で実現できるようなことを考えなければいけないのではないかと思います。

もう一つ、本市には、名鉄国府宮駅、J R稲沢駅と、大きな駅がありますが、それ以外にも中規模の駅があります。私の地元にもJ R清洲駅があります。名鉄大里駅もあります。祖父江には森上駅、平和には六輪駅があります。駅を中心とした多極型のコンパクトシティと言うのでしょうか、一極ではなく、小さい極であっても駅を中心としたまちを構想していくのが良いのではないかと思います。そうすると祖父江、平和についても決して話の中心から漏れ

ることなく、議論していけるのではないかと考えています。

[委員]

私も市街化区域拡大論者です。現在、本市の市街化区域が11.3%ですが、平成17年の合併前は13.5%でした。当時の32市において一番少ないのが新城市の7.8%で、後ろから2番目が実は本市でした。相次ぐ市町村合併以降は少し変わりましたが、大体今、県内市の市街化区域率を見ますと、平均で30～35%です。

本当にきちんとしたまちづくりというのは、その辺りを踏まえたビジョンをきちんと持ち、こういうまちにしましょう、例えばこういうバランスいいまちにしましょうと示すことではないでしょうか。そして、私たちもそれに堂々と胸を張って、これからの時代に対応する、少子高齢化に対応できるようなまちづくりを基本に置いていく議論が私は必要だと思います。

[委員]

私は名鉄国府宮駅のすぐ南側の高御堂地区に住んでいます。高御堂は市街化区域も、市街化調整区域もあります。農家は兼業をされ、水田農業もほとんど担い手の方に水田を管理していただいています。私は地元で、これからの水田農業のあり方をどのように考えますかというアンケートを取りました。農家の方は殆どが地主です。仰るような地区計画も頭の中にあるので、そうした考えを、これからのまちづくりについて町内で議論しようとしております。ぜひ行政サイドからも、地域の中でこれからどういう方向で農業をやるのか、地区開発をするのかというご支援をいただきたいと思っています。

開発する際には、どうしても土地の所有権の問題があります。強制的に取り上げるわけにはいきません。市では住宅開発等をお考えのようですが、土地をめぐる環境については税制面等様々なことを考えて進めないと空論になってしまいます。土地利用について議論しても、所有権の問題がのしかかって計画が前に進まないことがままあります。そのため、ゆっくり地域の中で話し合う機会を作らないと、理解はいただけないと思います。

今、稲島東の宅地開発に向けて進めているようですが、なぜ進まないかという、あれは土地を全部企業に売rinaさいという話だからではないかと思うのです。それでは大事な資産がなくなってしまうという抵抗感が農家の方に生じます。そのため、自ら組合を作って土地区画整理事業を行い、住宅供給用地として提供する方が、馴染みやすいと思います。

西町でも中々住宅が建たないのは、駅から遠く不便であるということと、価格の問題があると思うのです。本市は市街化区域率が低いので、土地の価格が高いです。だから、市外の方でも、土地を買って住宅を建てようとはならないのではないかと考えています。

[会長]

農業との関係についても、また場合によっては議論できればと思います。時間になりましたので、今日はこの辺りで終わりにします。

2 協議事項

(2) その他

[会長]

協議事項としては以上ですが、「その他」について事務局からお願いします。

[事務局]

今後の日程についてお知らせします。総合計画審議会の第3回会議について、10月27日の木曜日、午後1時半から、本日と同じ会場、議員総会室で開催させていただきます。よろしくお願い致します。[※注：大会議室に会場を変更]

本日いただいた意見等は内部で検討し、第3回以降の資料へと反映させてまいりたいと思います。今回お示しできなかった部分については、協議が整い次第お示しし、ご審議賜りたいと考えております。今後ともよろしくお願い致します。

[会長]

以上をもちまして、本日の議事は終了します。事務局からその他何かあればお願いします。

[事務局]

ご審議賜りまして誠にありがとうございました。以上をもちまして第2回の会議につきましては閉じさせていただきたいと存じます。会議を閉じるに当たり、市長公室長の篠田からお礼を申し上げます。

[市長公室長]

本日は長時間にわたり貴重なご審議を賜り、ありがとうございました。いただきましたご意見、ご指摘いただいた点、あるいは宿題となっていること、資料等について整理し、次回の審議会でお渡しできるように努めて参ります。

皆様のご意見を聞きますと、総合計画は総花的にやらざるを得ない部分もあるのですが、やはりメリハリを付けて、重点にすべきこと、選択すべきことを明らかにするべきとの意見もいただきました。そうした意見を踏まえながら、手法等について検討したいと思っております。

なお、今回、資料にチラシを同封させていただきましたが、10月29日から荻須記念美術館で特別展を開催します。没後30年にあたる荻須作品22点を中心に、パリに生き、パリを描いた芸術家たちの作品を展示いたします。お時間がございましたら、ご来館いただければと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。

本日は誠にありがとうございました。交通事故に気をつけてお帰りいただくようお願い申し上げます。